

日本初のプロテスタント教会

英国教会堂

長崎居留地
ドキュメント
ブライアン・パークガフニ

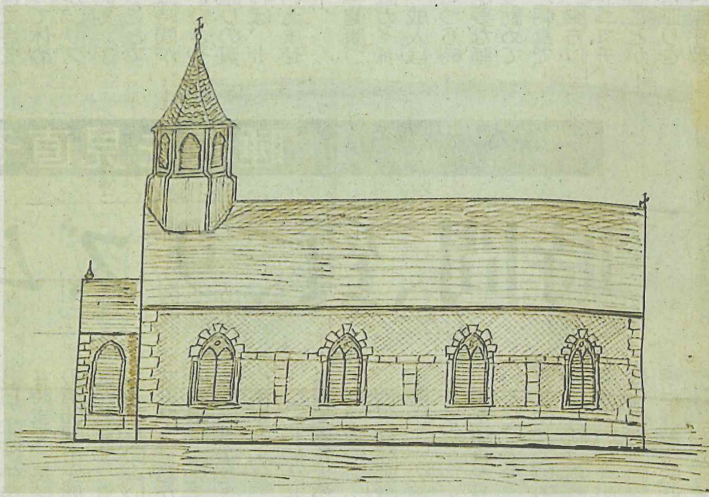
37

安政開港後、徳川幕府は江戸時代初期から強行してきたキリシタン禁止令を堅持する一方で、外国人居留地の境界内では信教の自由を認めた。初期の頃、長崎在住の欧米人たちは、住宅やその他の仮設の場所での礼拝を行ったが、文久2(1862)年春、英国聖公会社は既に長崎における公共の教会を建てるための建設事業に着手しており、大浦

準備委員会を結成し、代表にウィリアム・オルトやトーマス・グラバー、そして会計係にオルト商会の従業員H・M・ライトを選出した。

建設準備委員会は東山手11番地の借地権を取得し、天草の国民社との間で教会建設の契約を結んだ。国民

社は既に長崎における公共の教会を建てるための建設事業に着手しており、大浦

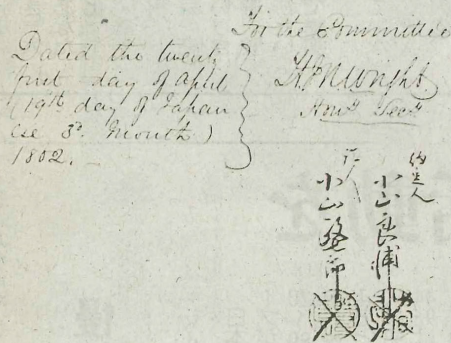


長崎英国領事館の資料に残る英国教会堂のスケッチ(英国国立公文書館蔵)

明治期の写真見つかる

地区の埋め立て工事などを手がけていた。契約書は英語で作成され、両当事者によって署名された。契約では、一分銀1200枚を前払いし、プロジェクト完了時にさらに一分銀1400枚を支払うことが定められていた。

同年秋に竣工した木造建築は「英国教会堂」と呼ばれ、正面に尖塔と鐘楼、石のブロックで補強された角とアーチを持つ白いモルタルの壁および和風の瓦屋根を備えていた。日本における最初のプロテスタント教会であり、後に大浦天主堂やグラバー邸など、長崎居留地を代表する洋風建築を手がけた小山秀之進の最初の業績でもある。献堂式は文久2(1862)年10月26日に執り行われ、最初



英国教会堂の建設に関する契約書には、小山秀之進の兄・良輔らと建設準備委員会の代表H・M・ライトのサインがある。日付は安政2(1862)年4月19日(英国国立公文書館蔵)



正面から見た明治初期の英国教会堂。隣接する区画にユニオンジャックの旗が掲げられている(デビッド・マイクル氏提供)

の礼拝を司式したのは、米国聖公会の宣教師チャニング・ウィリアムズだった。長崎英国領事のチャールズ・ウィーンチェスターは、新築の英国教会堂について次のように上司に報告している。「この端正で小さな建物は、2世紀以上前に在来のキリスト教徒が容赦なく追放されて以来、長崎に開設された最初のキリスト教会であり、教会建設への参画を断っていたが、翌年、長崎の英国人居住者に対して、建設にかかった費用として3000円を提供しており、当時の政府が国民の宗教活動を支援していたことがうかがえる。

大正5(1916)年、台風により英国教会堂の屋根が崩落し、建物は使用不能となつて取り壊された。太平洋戦争勃発まで、外国人居住者は大浦の水兵休息所(シーマンズ・ホーム)の談話室で日曜礼拝を行い、英国教会堂は再建されなかった。現在、東山手11番地の跡地は海星高等学校の敷地の一部となっている。今まで、南山手から撮影された教会の遠景しかなかった。しかし最近、明治初期に長崎を訪れた米国海軍軍医の遺品の中から、英国教会堂の鮮明な写真が発見された。ここに紹介するその写真は、日本で最初に建てられたプロテスタント教会の正面と建築的特徴を捉えており、貴重な新資料といえる。

(グラバー園名誉園長) 月一回掲載します